教育研究研修センターだより

通巻 No.274　　令和４年１月 17 日（月）発行

５０年前も，今も，そしてこれからも・・・

岡山市小学校長会長
岡山市立津島小学校校長　山本和明

令和３年度，津島小学校では創立５０周年を祝う様々な行事や取組を進めてきました。そのなかで，学校の歴史や伝統，教育活動の足跡をたどってみたいと思い，沿革を紐解いてみました。過去の記録を見ていると昭和５０年の教育指導の重点が目にとまりました。重点の一つには「学習に喜びをもち，進んで学ぼうとする意欲と態度を育てる学習指導」が掲げられていました。創立当初から津島小学校では，子どもの学びに焦点を当て，主体的に学ぶことに重きを置いて教育活動を進めていたことがわかり，５０年前からのつながりを感じてうれしくなりました。

それからの教育界は大きく変化をしてきました。阪神淡路大震災・東日本大震災などの巨大地震が発生し，西日本豪雨のような大雨による洪水被害も頻発し，それらを契機に学校での防災教育への取組が求められました。学校５日制，ゆとり教育の推進，総合的な学習の時間の導入，PISA ショックによるゆとり教育の見直しと学力向上の取組，道徳の教科化，外国語教育の導入，GIGA スクール構想の推進と時代の変化や社会の要請を受けて様々な教育改革が進められ，次々に新たな教育内容が組み込まれました。教師の業務は複雑化し，多忙を極めています。このように学校を取り巻く状況や教育課題は大きく変わってきましたが，平成２９年告示の学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」が示されたように，授業に焦点を当て，主体的な学びを追究するという考えは変わらずに大切にされてきました。令和を迎え，コロナ禍という制約の多い状況にあります。しかし，素晴らしいことに，あちらこちらの学校で，教師の工夫と努力によって魅力的な授業づくりが進められ，教室では生き生きと学ぶ子どもの姿に出会えます。

「付け足します！」瞳を輝かせ，自分の考えを発表しようと挙手した腕が指先までまっすぐに伸びています。

「これでわかりやすくなったかな？」と首をひねったり友達と相談したりしながら Chromebook を操作してプレゼンを作成しています。

「この段落は必要かな？」と筆者の意図について，グループの友達と熱心に議論しています。

「どうやったら跳び越えられるか？」と友達の動きを見ては開脚跳びの動きのこつを懸命に探し，粘り強く挑戦を繰り返しています。

このような学びの姿を積み重ねることが子どもの自立・成長に重要な意味があることを私達は知っています。また，子どもの成長に携わる教師にとって，このような姿への出会いが，次の授業，次の子どもたちへの関わりに向かうためのエネルギーに変わっていくことを私達は知っています。さらに，授業という子どもたちとともに創り出す空間・時間をデザインしコーディネートすることの醍醐味を私達は知っています。そして，そういった授業の値打ちや授業づくりの考え方を仲間と共有することの大切さと楽しさを私達は知っています。

授業づくりの工夫と努力を重ねてきた多くの先輩達と同じように，その取組は同じ重みをもって続けられ，これからもつながっていくと確信しています。なぜなら，子どもたちの顔を思い浮かべ，一人一人の成長を期待して「今度は○○をめあてに授業をやってみよう。」「○○と問いかけたらどんなことを考えてくるかな。」「全員に『できた！わかった！』と言わせたい。」と思いをもって授業づくりの工夫を繰り返し，日々の実践を進めることが，今までも，これからも教師が果たす役割の中心にあると考えるからです。

今日も子どもたちが楽しい授業を待っています。

研修を振り返って 初任者研修講座 新規採用養護教諭研修講座 新規採用栄養教諭研修講座

初任者研修講座

初任者研修は，教育に対する揺るぎない情熱，教育の専門家としての確かな力量，総合的な人間力を養うことを目的として年間16日の校外における研修と180時間以上の校内における研修を実施しています。今回は，特に「教育の専門家としての確かな力量」を育成するために実施した研修講座について紹介します。

【第8日】学習指導の進め方③（中学校） R3.7.30

【ねらい】
〇学習指導案の書き方や授業づくりのポイント等について学び，授業改善につなげる。
【育成指標との関連】Ⅰ―C，D，E 授業構想力，授業展開力，授業改善力

単元（題材）全体を見通した授業づくりについて学び，各教科に分かれて，学習指導案の作成・検討を行いました。

【受講者の感想より】
・生徒自身の学習改善と教師の指導改善のための評価であるということを再確認し，2学期以降の授業づくり，授業改善をしていこうと思った。
・同じ教科の仲間と授業の悩みを語り合うことで，課題に対する新たな手立てを考えることができた。また，授業の悩みを互いに共感し，安心した。
・生徒が「おもしろい！」と思う授業も大切だけど，一番は，何の力をつけるための授業かということを学んだ。手段ばかりに力を入れて，目的を見失わないようにしたい。

【第12日】道徳教育（小学校） R3.10.7 R3.10.21

「遠隔研修」の形態で受講者もそれぞれの多様な考え方に触れ，学びを深めました。

【ねらい】
〇公開授業，協議，演習を通して道徳科の指導の在り方について学び，実践に生かす。
【育成指標との関連】Ⅰ―C，D，E 授業構想力，授業展開力，授業改善力

午前の研修では，公開授業を視聴し，自分の授業に生かす工夫や，指導上の悩みについて協議しました。午後は，午前の協議内容を元に，道徳科の基礎的・基本的な指導の在り方について演習を通して学びました。

【受講者の感想より】
・他の教科と同じように，道徳科も「子どもたちに付けるべき力は何か」「授業が終わった時にどのような姿になっていればよいか」を明確にすることの大切さを学んだ。
・教材を子どもの日常に結び付け，子どもの心を揺さぶる切り返しや発問で，授業を深めたい。また，ペアトークなどを取り入れ，子どもが多様な考えに触れることができるように工夫したい。

【第14日】人権教育(小学校・中学校合同)　R3.11.11

山陽学園大学　井上　全悠　さん

【ねらい】

○ 人権教育の基本的な考え方を学び，人権感覚を高め，児童生徒のよりよい生活への支援に生かす。

○ 障害のある方の体験談をもとに，障害者福祉を正しく理解し，学校での福祉教育に生かす。

【育成指標との関連】Ⅰ－F，G　児童生徒理解力，生徒指導力

午前の研修では，人権教育の定義や目標，様々な人権課題について講義・演習を通して学びました。自分の人権感覚について振り返りながら，子どもへの指導を行う際の視点を学び，具体的な場面での対応について考えました。午後は，2020年東京パラリンピック代表でもある山陽学園大学　井上全悠さんの講義・演習から，障がいのある方の生き方にふれ，様々な違いを認め合う仲間づくりについて考えました。

【受講者の感想より】

・人権感覚を養うことの難しさと大切さを感じた。先入観や思い込みにより，多様な捉え方ができていないことに気付くことができた。子どもへの声掛けや接し方を考えたい。（中学校）

・「出来ないことを見るより，出来ることを見つけて取り組む」という言葉がとても心に響いた。私も，出来ることに目を向けて取り組んでいきたい。また，子どもの出来ているところを見つけてほめることを大切にしたい。（小学校）

新規採用養護教諭研修講座

12月3日（金），校外における研修の最終日を迎えました。全8日に渡る研修で受講者は養護教諭に必要な基礎的素養に加え，救急処置や保健室経営等，体験的な研修を通して実践的指導力と使命感を養い知見を広げました。

【第2日】
「救急処置演習」

【第7日】「保健室経営」
岡山市立岡山中央小学校
岡山市立岡山中央中学校

【受講者の感想より】

・初めのうちはただ目の前にあるものをこなす毎日だったが，研修で多くの事を学び，見通しを持って職務を遂行することができるようになった。

・専門職として養護教諭は常に学び続ける存在でなければいけないと感じました。これからも学び続ける姿勢を忘れず頑張っていきたい。

新規採用栄養教諭研修講座

今年度新設の研修講座です。栄養教諭の専門性に関する研修では，学校給食センターで身体測定機器を実際に使用し食育の中でどのように生かすことができるかを学んだり，先輩栄養教諭の学校の給食調理場を見学したりしました。また，小学校・中学校の教諭や養護教諭と合同で行う研修講座もあり，同期の絆を深めることができました。

【受講者の感想より】

・全ての研修を通して，「学び続けること」の大切さがよく分かった。この意識を忘れずに今後も栄養教諭として子どもたちのために努めていきたい。

【第7日】

「給食管理の実際について」
岡山市立宇野小学校

「身体測定機器を活用した食育について」
岡山学校給食センター

学校園の教育実践

意欲的に遊びに取り組む幼児の姿を目指して

～親子のかかわりを通して～

岡山市建部認定こども園

1 はじめに

建部中学校区では「主体的に学び続ける子どもの育成」を共通テーマとして実践に取り組んでいる。本園の幼児は素直で穏やかな幼児が多く、安定した気持ちで園生活を送っている様子が見られている。一方で自分の思いを表現したい気持ちはあるが、相手にうまく伝えることができなかったり自信がなかったりする様子も見られる。そこで今年度は昨年度までの研究である「家庭での親子の時間や取組」を継続しながら、幼児が自信をもち意欲的に取り組むことができる遊びや援助の工夫、家庭との連携について研究を進めることにした。

2 研究の内容

(1) 研究の仮説

○親子のかかわりが増えたり深まったりすることによって、幼児は気持ちが満たされ生活や遊びに自信をもって取り組むことができるのではないか。

○家庭で経験したことを生かしながら遊ぶことができる環境を整えたり、援助したりしていくことで、遊びを実現する楽しさや面白さを感じることができ、さらに意欲をもって遊びを進めていくことができるのではないか。

○幼児が意欲的に遊んでいる具体的な姿を保護者に知らせていくことにより、保育内容や親子ふれあい活動の取組への理解が深まるのではないか。

(2) 研究の視点

○親子ふれあいカードを利用して、保護者の気持ちや幼児の変容について探る

○幼児が「やってみたい」「もっとやりたい」と思える環境づくりと援助の工夫

3 研究の成果と課題

- 家庭で経験したことを生かして遊ぶことができるように、幼児の思いを丁寧に聞くことを心がけ、イメージしたことにすぐ取り組むことができるように素材や用具を相談しながら準備したり、環境を整えたりしていくことで、幼児が遊びを実現する楽しさや面白さを感じることが分かった。
- イメージしたことを実現する楽しさを経験することは「もっとやりたい」という思いをもつことにつながり、工夫したり試したりする姿にもつながることが分かった。
- やりたい気持ちはあるもののどうしたらよいか迷っている幼児には、描いているイメージを丁寧に聞きながら思いを受け止め一緒に取り組むことで、少しずつ自信がもて「やってみよう」という思いにつながることが分かった。
- 親子ふれあいカードに取り組むことで、保護者自身が親子で触れ合うことの楽しさやかかわることの大切さに気付く様子が見られ、園が家庭での触れ合いの様子や保護者の思いを理解する手立てとなった。
- 園での様子を保育の専門的な視点や願いを盛り込みながら掲示した（右写真）。多くの肯定的な意見をいただいたことで、保育内容や親子ふれあい活動の取り組みへの理解と連携の深まり、「園と保護者が一緒になって子どもを育てる」という意識の高まりを感じることができた。
- 親子で触れ合うことが大変だと感じる保護者もおり、思いに寄り添いながら連携していくことが必要であると思われる。

園内掲示の様子